第８回 双葉町復興推進委員会　議事録

■日　時：平成 26 年 6 月 26 日（木）　午後 1 時 00 分～午後 4：30
■場　所：双葉町いわき事務所 2 階大会議室
■出席者：双葉町復興推進委員会委員
　　事務局（双葉町復興推進課）

（参照：第８回 双葉町復興推進委員会座席表）

１．開会
【事務局　細澤　界】
　復興推進課の細澤です。さっそく本日の会議の方を進めてまいります。これから先につきましては、間野委員長に進行をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。
【間野　博　委員長】
　皆さん、こんにちは。御苦労様です。今日は第８回の復興推進委員会ですけども、ワークショップの第２回ということで。この間、初めてワークショップの形式でやりまして、非常に活発な意見が出まして、思った以上のいい成果が上がったと思っています。
　今日は、この間のワークショップを引き継いだ形で、今日は将来の双葉町をどういう町に再生させたらいいかと、新生双葉をどういう町にと、そういうテーマに限ってといいますか、今日は未来の双葉をということに絞って、皆さんの意見をおうかがいするというワークショップです。前回にまして活発なご意見をいただいて、長期ビジョンを作成するのに役立っていくようになればいいかなと思っております。
　それでですね、この会議の運営ですが、前回と同じですけども、皆さんグループ討議をやった後、発表をグループごとに発表していただくわけですが、その発表の段階から外部の人にも出席してもらうということで、グループの議論の段階では外部の人には入ってもらわないということ。非公開ということですね。あまり大袈裟なことではないんですが、あんまり周りのことに気を使わずに意見を出していただくということで、発表の段階から色んな復興庁とか県の人とかに入ってもらうという形で進めたいと思いますがよろしいですかね、そういう形で。
　それでは、早速今日のワークショップを始めたいと思います。ここからは、事務局の方で説明がございます。今日グループの話がありますので、事務局の方から説明をしていただきます。
【事務局　細澤　界】
　では私の方からちょっとご説明をさせていただきたい部分がありますので、よろしくお願いします。本日の出席者につきましてはお手元の資料１の座席表の通りになっております。グループ分けにあたってなんですが、資料２をご覧いただいて、見ていただきたいんです。前回のグループ分けにあたりましては、皆さんの方の名簿を、上から順に４グループに分けさせていただいてということで進めておりました。
　今回も同様に進めたいというふうに予定しておったんですけれども、今回出席をお願いした委員の方の中で７名ほど、急遽出れないという方がおりました。そういった関係がございまして、その欠席の内の４名がＡグループに集中してしまったということがあったものですから、議論を進めるにあたっては、ある程度の人数がいる中でのご議論をお願いしたいということで、Ａグループの伊藤副委員長と川原委員に申し訳ないんですが、Ｃグループの方に今日は移っていただきまして、３グループの方でワークショップの方を進めていきたいと考えておりますので、この点ご了承いただきたいと思います。あと今回の会議なんですが、副町長、町の幹部関係、あと学識経験者とか国、県、復興庁、そういった関係の方につきましては、皆さん方のご議論をまとめていただいた発表の段階から参加ということでお願いしたいと考えております。
　では、さっそくこれからワークショップの方に入っていきたいと思いますけれども、進行に

あたりましては、ファシリテーターの林さんの方にお願いしたいと思いますので、今後の進行をよろしくお願いいたします。

【ファシリテーター　林　聖子　氏】

はい、では始めさせていただきます。皆さんこんにちは。どうも、1か月振りですね。前回はありがとうございました。今回も林とサポーターチームで進めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。じゃあ早速進めていきたいんですけども、前回、皆さん覚えてますかね。前回は課題を間野委員長にもお話しいただいたんですが、課題を中心にお話をいたしましたよね。コミュニティ形成の事とか、医療とか、文化の継承とかそういったようなお話が出て、ちょっと将来ビジョンというところで企業誘致とか、リトル双葉なんて言葉も出てきたと思うんですが、今日は将来ビジョンの方を中心に話していきたいなと思っています。

本題に入る前に、前回お休みをされた方もいらっしゃいますので、ここで今一度この1回、前回、そして今回、そして後1回、3回を通したワークショップの目的をご説明させていただければと思います。

説明は金子先生の方からお願いします。

【ファシリテーター　金子　和夫　氏】

皆さんこんにちは。2回目をよろしくお願いします。

この委員会では3回のワークショップを開催して、双葉町の将来を見据えた復興の在り方と、町民の今後の暮らしと町民コミュニティの形成についてと2つのことを、話し合うことになっています。

前回両方やったんですが、今回は将来を見据えた復興の在り方について、今日とそれから7月と2回連続して行っていく予定です。これをもとに秋に皆さんの意見を中間提言として取りまとめ、年度末に復興まちづくり長期ビジョンと、こういう形でまとめ上げられるということになります。長期ビジョンを作るというところを、今日いよいよ入っていくということになります。

そして、長期ビジョンはどういうものかということについて、町に説明してもらいましょう。

【ファシリテーター　林　聖子　氏】

皆さん、こちらの資料をお持ちでしょうか。こちらの資料を出していただきまして、こちらにつきまして、橋本さんお願いします。

【事務局　橋本　靖治】

復興推進課の橋本です。どうぞよろしくお願いします。この資料3、双葉町復興まちづくり長期ビジョンの作成に向けてという資料を基に説明させていただきます。

この長期ビジョンというのは、今回私共の方からはこの細かい内容であったりだとか、あと位置付けというのを多少細かくですね、説明させていただきます。

今ほど金子先生の方からご説明ありましたけれども、この長期ビジョンについては4月の第6回委員会の中でも、今年度こういったことを進めていきますよっていうところで初めてでてきたところ、表現だと思いますが、今年度双葉町ではこの復興まちづくり長期ビジョンというのも作成しようという動きに向けて、そのために今回復興推進委員の皆様にも色々ご意見を頂戴しようとしているところでございます。

では資料を1枚めくっていただきまして、上段に、1,これまでの計画の振り返り、それから2,長期ビジョンの策定についてとありますが、これは目次でございます。この目次に添った内容で今後説明してまいります。

その下にあります、これまでの計画の振り返りということで、平成25年の6月に、(1)になりますけれども、復興まちづくり計画第1次というものを町として策定いたしました。この内容といたしましては、まず理念ですが、復興まちづくりの理念。町民一人一人の復興と町の復興を目指して。それから復興の基本的な考えですけども、町民主体の復興というのを目指していくというふうな内容となっております。

第1次計画の中では、双葉町の再興に向けたロードマップ(道のり)と、町民の生活再建のた

めの施策を中心に当面4年間(平成29年頃)までに取り組むべき施策を策定というふうな、そういった内容になっております。

ですから、今現在置かれている町の状況をどうするというところまで細かくは、この1次計画の中では盛り込まれておりません。

次また見開いていただきますと、まちづくり計画第1次から抜粋したものをと。内容でございますが、復興の基本的な考え方ということで、内容としては原発事故によって避難を強いられている双葉町の復興は、喫緊の課題である町民の生活再建と長期的な取り組みである町の復興を分けて考えていく必要があるというようなことで整理しております。

下の方に図面がございますが、右側の方に双葉町の復興とありますがこれは最終的なゴールというところが双葉町の復興というところでありますが、その前段として人の復興、それから町の復興というところが分けて考える必要があるでしょ、というとこです。

今回ご議論いただきたいのは、この赤い四角の枠で書かれてあります町の復興の部分です。「長期的に双葉町の土地を復旧、復興し町を再建、再興していく空間としての町の復興を目指す」、この部分を、色々ご議論いただきたいというふうに考えております。

その下のページ、(2)。次は、これは昨年度復興推進委員会の皆さんにご議論いただいて、町で計画第1次に基づく事業計画というのを平成26年の3月に策定しました。この内容を整理します。この中で、事業計画の中に故郷への帰還と双葉町の再興に向けた取り組みということで平成26年度の計画、この中で町の帰還、復興のための復興まちづくり長期ビジョンの策定に取り組むとしております。また、町の復興、まちづくり長期的ビジョンは双葉町復興推進委員会の意見を踏まえて作成するというふうな内容でございます。

その後、27年度以降は、長期ビジョンを踏まえて国、県等々と具体化に向けた協議を実施していくということで、町の取り組みについてこの事業計画の中に盛り込んだところでございます。

見開いてもらいまして次、今回の長期ビジョンについてこの策定の内容ですが、目的だったり対象範囲というところを説明いたします。

まず(1)、策定の目的及び対象範囲ですが、復興まちづくり計画の第1次の中では基本方針として、町の復興について双葉町の再興の最終的なゴールは双葉町へ安全に安心して帰還し、町を再興すること。また、将来の子供達のために魅力ある双葉町を再興していくことが双葉町復興まちづくり計画の最終目標であると、基本方針の中ではしております。

また、双葉町の復興、再興へ向けた考え方としては、町民皆さんの意見を十分に踏まえてこれまでの双葉町の良さを継承しつつ、事故前の町を完全に再現するのではなく、線量が早期に低下した一定の地域に都市機能を集約させ、そこでインフラや住居等を再構築する新たな町を建設することを視野に入れて検討を進めるというところでございます。ここ視野に入れてというところ、ちょっとキーワードかなと思うんですが、まったく新しい町を創るということではなくて色々現状の町の大切な部分は残しながら、また新たに創るべきものは創っていくと。そういったところをどうあるべきなのかというところをここ委員会の皆様に、ご議論いただきたいと思います。

その下が町の復興まちづくり長期ビジョン、今年度策定の予定ですがこの目的です。目的は、復興まちづくり計画第1次を踏まえ、町の復興、再興に向けた考え方の具現化を目的として策定する。また対象範囲ですけども、これは双葉町全体を対象といたします。

次のページでございますが、(2),この長期ビジョンの目標です。復興まちづくり計画の中では、期間を、短期、中期、長期というふうに分けて短期は事故後6年、平成29年度頃。それから中期は避難指示が解除されるまで、長期は避難指示解除をされた以降の部分。今回長期ビジョンの目標っていうのは、この長期、避難指示が解除された後の双葉町の絵姿。そこのところが今回の長期ビジョンの目標となっております。ここに絵が描いてありますけど、これが今現在25年に策定した部分と比べますと多少状況が変わっている部分はありますが、一応計画の中ではこのような図の中で位置付けはしているところでございます。

その下、(3),長期ビジョンで定めるものでございますが、双葉町復興推進委員会での議論等を踏まえて下記の内容を盛り込んだビジョンを策定すると。まず１つ目、町の復興、再興の理念。双葉町の復興まちづくりに求めるもの(将来像)、段階ごとのまちづくりの考え方など。②安全安心な期間に向けた条件、そういったものの整理、それから③、双葉町の復興、再興の絵姿。どの段階でどこにどんな機能(産業、文化、サービス等)を確保するのか。町の復興の足がかりとなる拠点の位置、絵姿等。④長期ビジョンの実現に向けた取り組み。何をやっていくのかというところでございます。

以上なんですが、今日ご議論いただきました正にこの長期ビジョンの町の復興に対してどうお考えなのかというところをご議論いただきたいというところでございます。以上です。

【ファシリテーター　林　聖子　氏】

橋本さんありがとうございました。町の復興、新しい双葉町というところで、皆さんの意見を是非聞かせてください。色々思うところ、是非ワークショップで。前回のちょっと振り返りをしたいと思います。あの谷様、木藤様は前回いらっしゃらなかったということで、前回の振り返りのまとめをしたいと思うんですが、参考資料の９ページのイラストご覧いただけますでしょうか。こちらのイラストを基に説明をさせていただきます。

【ファシリテーター　金子　和夫　氏】

はい、今皆さんお手持ちのものが、前回の皆さんの議論の内容です。今机の上に模造紙が広げてありますけれども、言葉を拾ってまとめたものです。各グループでどんな発言があったのか等を全部書いてございますので、今日の議論の参考にしていただければと思います。

前回は、現在の暮らしの課題の話と将来像の話をしました。前回の中で、現在の暮らしの課題というのは、やはりそのコミュニティ形成が大事だ。各地に分散して住んでいる町民の皆様のネットワークや支えあい、コミュニティ。これは本当に大事だと、もっとやっていかなければならないということ。

それから住宅から商工業とか、交流といったような集まる拠点を各地により整備していきたい。それをリトル双葉というような形で双葉の人が各地に集まれる場所があるとよいということでした。

それからもう１つ、心の問題で、これからは心のケア、自立力というものをしっかり支えあっていこうじゃないかというお話でした。特にその中で、若者の参加ということがこれから大事になってくるというお話です。将来はまず町の核を創るところから始めたらどうかということでした。例えば、そこに行けば双葉の文化に触れられるような文化センターとか、それからおもてなしとか地域の伝統を伝える伝承館とか、例えば浜地区の再生とか色々な形で戻れるところから核を創っていこうというお話が多くありました。

それからもう１つ、若者の参加、子供の育成ということで、働く場作りとして企業誘致や、新たな産業ですね。こういったものを考えていこうと。これが前回の話でございました。

各グループでもそれぞれどんな将来に向けて言葉が出たかというのは、書いてございますのでまた後で、各グループで話し合ってみてください。

【ファシリテーター　林　聖子　氏】

前回各グループで、話し合ったことは皆さんの机の上の模造紙にございます。これ、ワークショップに入る時に一度、振り返りをしますのでよろしくお願いします。本日の将来ビジョンを語る内容なんですが、そちらをご説明をさせていただきますね。

【ファシリテーター　金子　和夫　氏】

お手元に、カラーの紙がありますのでご覧ください。出来るだけ皆さんが話しやすいようにちょっとポイントを整理してみました。この図を見ていただくと、左下が私達がいる現状です。ここから右に向かって時間、将来に向かって時間というものがあります。

それから上に向かって復興というものがあります。現在私達は双葉町に戻ることが出来ず、各地で分散して暮らしているわけですけれども、そこからいつの日か将来、このような町を再び復興しようという議論を、今しています。そうした時に、議論のポイントとしては、３つか

4つありまして、1つは将来の姿を語ろうということですね。いつの日かこんな町になっていてほしいという言葉を語る。

例えば、将来の像というのは、子供達や若者が生き生きと働いていると。子供が戻っている。それから、若い人が生き生きと働いている。こういう町を再び創るんだと、それから、元々の町民と新たな町民が共同して双葉町の伝統文化や風景を未来に向けて継承、発展していく。戻る方、それから新しくこの町に入る方もいるかもしれません。その人達が双葉のこういった伝統等を守り育てていく。

それから、全国の双葉町民が故郷に集まり交流している。東京とか京都とか全国に移って住んでいるけれども、墓参りとかそれからお祭りとか同窓会がある時に双葉に戻ってきてここで皆と交流している。このように将来のこうありたいという姿を是非ちょっと描いてみていただきたいということが1点です。

それからもう1点は復興の理念と書いてありますが、考え方です。例えば、私達の世代、未来の世代、色々な考えがある。例えば子供達の為のまちづくりを考えたい。これも1つの考え方ですね。それから昔の姿に戻したいとか、未来志向で新たな町を創ろうとか、これも1つの考え方ですね。それから、新たな町にも双葉町での生活、伝統、文化、歴史、風景が必要なんだと。やっぱり双葉らしさというものを忘れてはいけないと。これも考え方ですね。

それとか、新産業とか技術とか研究とか新しいものを誘致しよう。これも考え方ですね。将来像を線引きすることは難しいかもしれませんが、こういう考え方でいきたいんだというご意見、具体的にこんな姿を目指すんだというこう姿、意見とか。こんなふうに出していただければと思います。

あと、今日はここをメインに話していただきたいんですが、未来の姿を実現するためには色んな手だてがありますよね。戦略っていうのは作戦、大きな作戦です。事業、計画というのは具体的な1個1個の事業です。例えば、さっき子供達、若者が働くんだったら新産業誘致戦略、こういうのをやったらどうか。今週ですか、福島県浜通りの新たな産業の報告書が出されたと新聞で見ました。ここに産業誘致をしようという考え方とか。それから、文化の継承戦略で文化施設なのか文化行事なのか、こういったものを作るといいんじゃないかとかですね。こういったもう少し具体的なアイデアがあればこれも是非出していただきたいというふうに思います。

それともう1つ、復興に向けて安全・安心な帰還の条件っていうのが前提になります。これについては時間的にまだまだ不確かなものです。これはやはりこういったことも大事だといういくつか項目があれば是非これも上げていただきたい。

例えば、中間貯蔵施設の問題とか線量の問題とか色々なやはり問題がございます。これについてこの復興を考える上で大事だというものは、これも是非上げていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

【ファシリテーター　林　聖子　氏】

大丈夫ですかね。前回ですね結構現状の課題を中心に語ってたんですけども、将来のこともちょっと意見を聞いたりして、お時間が中々慌しい感じだと思うんですけれども、今日はじっくり将来ビジョンというところで皆さんの意見を聞いていきたいなと思ってますので、たっぷり時間をかけていきたいと思います。なので、これから2時50分位までグループワークをしていって、途中休憩をとって、その後成果発表という形にしたいと思います。だいたい3時位を目指してグループ発表の方をしていきたいなと。グループ発表の方で、前回同様ですね代表者の方を決めていただいて発表をしていただくと。且つグループの方にも一言一言ご意見を発表していただいくという形になっております。

その後で、間野委員長の方から進行をバトンタッチ、間野委員長の方に進行をバトンタッチいたしまして皆様との意見交換会をいたしまして、副町長の挨拶がありまして終了と、業務連絡をして終了という形になりまして最終が4時半位を予定してます。

もしかしたらもうちょっと早めになるかもしれないんですけども、だいたいそのような予定でおります。

ワークショップなんですけども、皆さんもうご存知かと思うんですがこのワークショップ、座談会、進める上でちょっとだけルールというかお約束がございますので、じゃ簡単に金子さんお願いします。

【ファシリテーター　金子　和夫　氏】

前回ワークショップやっていただいていかがだったでしょうか。会議に比べてワークショップはとっても意見が言いやすかったと思います。委員会でもこのワークショップを考えたのは、一人一人の意見を出来るだけ沢山出していただきたいということで進めております。

今日はそれで特に、将来像とか様々な安全安心の条件とか、話が大変こうある面大きくなります。その上で、是非今日の進め方で守っていただきたい点がいくつかありまして、1つは、いよいよこうなりますと様々な考えがありますので、それぞれの意見を尊重していただきたいと思います。そしてお互いの意見を戦って、どっちが正しいかを言う場ではありませんので、なるほどこういう意見もあるんだなと、私はこういう意見ですよと、そのようにどんどん出していただきたいと思います。

そして是非の議論をするというよりは、沢山意見を出し、またその意見を何故そう考えるのかという理由を前向きに学びあったり、共有したりしていただければというふうに思っています。

今日は、特にあまりカードに沢山書いて、作業として進めるというよりは少しじっくり将来について皆さんに考えながら話していただきたいというふうに思っています。

今日は私共ファシリテーターも、皆さんのつぶやきを出来るだけ丁寧に書いていきますので、皆さんがじっくり考えて意見を言えるように進めていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

【ファシリテーター　林　聖子　氏】

よろしいでしょうか。早速ワークショップの方に入っていきたいんですが、でまず前回欠席されて今回の方、前回皆やったんですが自己紹介をしていただいて、そして前回の振り返りをですね皆でして、それから今日の本題に入りたいと思いますので、サポーターの皆さん、よろしくお願いいたします。では始めましょう、よろしくお願いします。

2．議事

（1）ワークショップ

テーマ：双葉町の将来像について　（略）

（2）ワークショップのグループ成果の発表と全体討議

【ファシリテーター　林　聖子　氏】

お待たせ致しました。ワークショップのそれぞれの発表に入りたいと思います。今日はA班がいないのでB班から始めたいなと思うんですが、発表は、代表者の方が5分、参加者の方がお一人ずつ1分位思いの丈を是非お願いします。合計10分です。だから皆さん合計10分で代表者の方5分、そしてお話しがデットヒートして熱くなりすぎて長くなるといけないので発表の際にはベルを鳴らしたいと思います。まず発表から4分経つと全体の4分経つと「チーン」という鐘が鳴りますのでちょっと焦ってください。そして最後は「チーン、チーン」という事で終了になりますのでよろしくお願い致します。ではB班からという事で皆さん前にお越しください。

【松本　浩一　委員】

B班です宜しくお願いします。Bだから2番目だと思って安心していたら最初にはいりました。B班では現実があれこれ厳しい事が多いので、なかなかその双葉に戻った時の将来像っていうのは漠としてて、5年後なのか10年後なのか30年後なのかという事で色々話し辛いなあなんて話しがあったんです。そうは言えこんな風な双葉町になっていればいいなという事を私たちが後々に子供達や孫達に伝えた時に、いい爺様だったな、婆様だったなと思える様な案を

出しましょうという事で話し合いをしました。それにつけても現実面でクリアしなくてはならない中間貯蔵の問題だとか帰還の時期とか、若い人に復興計画を担ってもらわないといけないよなっていう現実的な意見も出ました。、それを帰還の条件としてクリアした上でどんな事ができるのか、これがそのいわゆる理想というか私達が考えるもの、そしてこれが現実、でこれがその中間、それからって事なんですけども、子供達の意見を多く吸い上げて私達の様な人生経験豊かな人達だけではなくて子供達の意見を多く吸い上げていくのも大事じゃないかという事が出されました。それが小学校の高学年位になると双葉町のイメージも少しあるんですけれど、低学年の子供達はもう双葉の事さえ覚えてないんじゃないかという事もあったので、これからどんどん吸い上げていくべきだという事も出されました。そしてもう一つの現実として日本全国高齢化が進んでおりますけれど双葉町もご多分に漏れず介護とか色んな問題出ているのでそういう問題もクリアしなくちゃなんないなという事も出されました。私たちのテーマはちょっと前後したんですけれど「妄想、空想、そして現実」というような事でこれから妄想、空想、現実の中に入っていきたいと思います。その柱が二つありまして、一つはなんかあれこれ出て忘れちゃったので読んでいきますね。農村地帯の町だったでも原子力の町になった、それでその農村の良さを、双葉町の良さを生かすためにはという事で例えば大学の農学部の設置を目指す、そこに研究所ができてそれに関連した企業誘致などもできたらば人は戻るんじゃないかという事が出されました。それから原子力発電所と対極にあるような自然の発電、太陽光発電なども視野に入れたらどうか、それから産業施設のそばに宿泊施設などもあれば人が集まるんではないか、それから体験型学習、それから宿泊施設を広くしてほしいなども出されました。それから原爆ドームのように現状を残して国外などから興味を持つ人を呼んで現状を知っていただく機会を、そしてそういうハード面でも充実を目指していく事が大事という事も出されました。結局はなんだかっていうと今人が当然住んでいないので住めるようになったらば人がどんどんどんどん集まれば俺も俺もってんで少しは人が増えていって活気づくんじゃないかって事が総論です。もう一つはいわゆるアーカイブ、記録の部分で共同墓地をつくっていく、それから記念日をつくって忘れないようにしていく、それから資料館、先程の原爆ドームと関連するかもしれませんけれども資料館などを残していく。ちょっとまとまらなかったんですけれどこんな所が出されました。あとは個人個人でちょっと補足して頂けると思いますので宜しくお願い致します。

【岩本　千夏　委員】

岩本です。補足します。原爆ドームのような物を残したいって事で要は荒廃している双葉町そのものもそうだし原子炉 4 号機、5 号機に入れたりとかするのも将来あり得るのかなというのと、富岡にあったエネルギー館みたいな形でもっと事故を起こした記憶も含めての物をつくったらどうかというので、でこの時要は 30 年、40 年後ってもう今の子供達が爺ちゃん、婆ちゃんになるような歳で覚えてないと困るんで、色んなそのうちらの知識を子供らにどんどん繋いでいくっていう事で、エンディング、自分史をつくる、要は爺ちゃん、婆ちゃんらが自分の家の事を書いて、こうだったああだったというのを自分の家を残す記憶をどんどんつくってそれが子供に伝わっていけばこの今の現状も要は海外から来る方に語り部ができるんじゃないかって事で記録を残すという事です。私自身本当長期ビジョンは難しくて、妄想的な物が強くて本当難しいと思うんですけれども、我々はこう考えるけれどもこれから 30 年、40 年、50 年子供らが多分同じ長期イメージを変えていかなきゃ繋がっていかないのかなと思ったんです。今回のイメージは第 1 回目の今の段階かもしれないけど将来大きく夢を持つには本当今の子供達がどう考えていってどう繋いでいくのかが大事なんで、我々が今子供らに伝えなきゃいけない、残していかなきゃならないものが大事なのかって思いました。以上です。

【石田　恵美　委員】

是非妄想が現実になるように頑張って頂きたいと思います。

【大橋　正子　委員】

私も同じで、私達はいつ帰れるかわからないので妄想で語りました、B チームは。以上です。

【高田　秀文　委員】

私はですねこの将来像っていうのは現実今の生活がなければ皆さん元気で、続けていかなければその将来像のも出てこないので、地域の繋がりっていうのは大事だと思うんですよね。そのうえで今いわきの方に町の復興計画色々進めてると思うんですけど、前回も私言ったと思うんですけど、もう一つやっぱり県外にも必要かなと、あと福島県にもう一つ町の拠点となる、準拠点となるような場所、特に郡山は県の中心地でもありますし高齢の方もやっぱり色んな意味で介護していかなくちゃならないっていう部分で是非その郡山とか県外にもう一つそういった拠点づくりを考えて頂きたいと思っております。宜しくお願いします。

【横山　敦子　委員】

私は福祉に携わる者として意見を述べさせて頂きました。現在、被災しているかどうかに関わらず介護職員不足はとても深刻な問題になっております。郡山市を例に挙げてみますと、介護職員が不足して施設基準を満たすことが出来ずに休止状態のところがあります。双葉町においても要介護状態の方が増えており、施設入所やサービスを希望しても断られることが多くあります。今後、いわきに建設予定の施設や復興公営住宅に入居した際の支援が必要です。双葉町が他に頼らずに自分たちで助け合い、支え合う仕組みつくりが求められていくと思います。同時に若い世代に介護や医療などの職業の魅力を理解してもらい、資格取得の助成をするなど具体的に考えていくことが必要に思います。

【ファシリテーター　林　聖子　氏】

B チームの皆さんありがとうございました。続きまして C チームいきましょうか。

【伊藤　哲雄　副委員長】

C チームの方説明させて頂きます。C チームのタイトルが「故郷帰還への夢を託して」という事で決まりました。現状なんですけれども中間貯蔵施設問題、あとここに載ってないですけど廃炉、それから風評被害それぞれ現状として今妨げになっているような問題があります。それを対処する為にその将来を進めていく為にも人材育成がこれから必要で、それを進めていく為にも文化の継承と教育をどう進めていくかの人材育成が大事である。その文化継承についての内容なんですけれど双葉町のロゴマークを見ると安心するというような継承をしてもらいたい。あとダルマ市、せんだん太鼓これも将来に託して継承してもらいたい。教育におきましては将来の子供達に故郷をイメージしてもらうと。双葉町を取り戻すという気持ちを継承してもらうこと。それから商業施設、病院、金融機関等の近く公園等のまちづくりをして頂くと、それから若い人達が戻ってくるようなまちづくりの様な人材を育成してもらいたいこと。それからこれは、近々に今協議でやって頂きたい事は広域合併による拠点を設けてもらいたい。それからいかに早く双葉の町の核をつくるかこれも近々ですね。それから町民の心の癒す場所も早くつくって頂きたい。これは最終的に双葉町の拠点、リトル双葉に繋がると思います。これは将来みんなが集まれる場所を早くつくって頂くという事で近々にやって頂く事です。それにも人材育成をやって頂くことは、ハイレベルな人材育成、ハイレベルな作業を築くにも人材育成大事である。これを将来双葉町がどのように、どういう風に変わっていこうかという事に対しては、まずもってこの次に産業が一番の長期の時間をかけまして、これが一番双葉町に戻れる帰還の要因になると思っております。一つには国営の産業を誘致すること、データセンターの誘致をすること、それから若者が戻ってくれる働きやすい場所を確保すること、まずもって産業として放射能関連の作業と廃炉に向けての施設、結局廃炉なんですけれど、それと除染関係の作業を早く国営で推進してもらう事がこれからの双葉町を発展させる、人が戻れる環境になるんではないかと思っています。最優先に産業を早く優先して国営でやって頂きたいなと思っております。そして長い時間はかかると思います。以上です。

【川原　光義　委員】

「故郷帰還への夢を託して」という事で大いに夢を語りました。夢を食べるバクが出てきて現実的に何も実現できなかったという事が無いように少しでも、二つでも、三つでもこの夢が

実現する事を願って私は終わります。

【岡村　隆夫　委員】

このテーブルではかなり広範囲な意見が出てます。B 組の発表でもかなり出てます。ただここでちょっと整理をさせて頂くと、この将来についてはちょっと見えないのがもの凄いある訳ですね。廃炉の問題、それから中間貯蔵の問題、どうしたら、我々に何を考えろというのかという事かなという位感じております。そういう意味でただここの中で継承していかなくてはならないという事なんで早くこの双葉町の核をつくって、そこで今の我々の世代とそれから学校教育の中で次の世代に継承してそれで最終的に双葉町を再生してほしいなという事でございます。以上です。

【齊藤　六郎　委員】

C 班「故郷帰還への夢を託して」という事でお話しましたけれども話しをしていく中でやはり障害になる事が出てきました。私としては若者達にそのこれから町を背負って頂きたいという事で若者達がいかにして町に戻れるか、その為にはまず産業を双葉町に興していくとその事が大事だろうと、そして早く学校を再開して子供達がどんどん集まってこれるそういう双葉町にしていきたいなという風な話し合いなどを致しました。あとは故郷づくりについてはやはり一つのまとまった個所に商業施設があり、医療機関があり、金融機関があり、そして駐在所というそういう所に周りに公園などがあって憩いの場になるようなそういうその町、将来はできたらなとそんな思いでおります。そんな事お話しました。以上です。

【山本　眞理子　委員】

町民の歌のサビにもありますように「緑あふれる双葉町、伝統ふかき双葉町、ゆく手輝く双葉町」。故郷帰還への夢を息子に託したいと思います。息子と色々話し合っていきたいと思います。

【ファシリテーター　林　聖子　氏】

C チームのみなさんありがとうございました。産業とか教育というのはやっぱり B チームでもキーワードが出てきましたね。皆さんの意見交換この後ございますので、他のチームの意見なんかも聞いてみたいなと思います。最後 D チームいきましょうか。

【菅本　洋　委員】

D チームの菅本です。本当は私がやる訳じゃなかったんですけれど肝心な人が今日休んでそれでも皆さんで色々考えてやったんですがどうしても順番が私に回ってきた様で申し訳ございません。あんまりお話しが上手じゃないんで。私どもの D グループでは「きずなの継承」という事で一応タイトルはつくったのですがまず現実に今の気持ち、中間貯蔵 30 年間、これが一番ネックになっているんです。それと廃炉。いつになるかこの見通しが立たない限り全てこれはただ書いた餅で終わっちゃうという事が一番危惧する訳ですよ。そこでまず近隣とのきずな。これは双葉郡全体としての結局きずなですね。これは町村間でよく相談して進めるならばできれば一緒に、双葉町も正直言ってこれから先残れるかどうかわかんない訳です。日本全国で今市町村が、今学会の方でも騒がれていますけれども消滅する村町がある訳です。その一部にも双葉町が入ってる訳です。そういう事でこれからの事も色々とお互いに連携をとってやって頂きたいと。それとこのきずな、結局名前を残したい。地図の上にも双葉町を残したいと、その他にも結局先程もお話しありましたがリトル双葉、それから現在双葉町には前にも復興に関しての住宅の双葉町には、カラクリ時計というものがあったので、そういうものをやっぱりここばっかりじゃなくて各復興住宅が大勢、いっぱい建つ所に一か所じゃなくて二か所でも三か所でもいいと思うんですよ、子供さんのいる所で。そうすると双葉町はこういうものあったんだなあという事が思い出して頂ければこれは幸いと思います。それでその次にあくまでもこれは理想という事であったんですが、まず働く人が来れるかどうか。その為にはエネルギーに関しての総合的な研究所、廃炉に関しての研究、中間貯蔵施設に関しての研究、地熱発電、風力発電、なんでもあるんですよ、太平洋だから。今波の関しての研究というのが四国の方で、瀬戸内か、瀬戸内海の方で流れが速いもんですからそこでもって研究も進んでいるようです。そう

ゆうような事であらゆる物がここでどんと出来る事によってその企業がやがて誘致を促すという事によって我々の子供、孫達が大威張りで仕事ができるようなそういう環境をつくっていかなくてはならないんじゃないかという事でございます。それで最後に戻らないと決めて他で再建に結局注いでる方がいる訳ですよ。もう帰れないよと、ところが住民が戻ると戻らない、では自治体がなくなっちゃってねえかと。双葉町内でもシンボル一つだけでも二つでもいいから残しておきたいというのが現状ですね。それとこれはこの準備はいつするのかと今の流行語じゃないけれど今でしょと、そういう事でございます。以上、私の方からは以上でございます。

【田中　勝弘　委員】

この委員会で一人位変わり者がいてもいいかなと思いまして今日はあえて自分の思いを伝えたいとお話ししたいと思います。今菅本さんの方からずっと説明ありましたが、最後の他で再建する事を検討した方がいいんじゃないかってここで意見を述べてのは、私なんですけれど、というのはこの推進委員会は双葉に戻るっていう事を前提にした会議だと思うんですけどどうかその逆も考えて頂ければと思うんですよね。双葉に戻れないってことを前提にした復興計画という物を考えていくとこの会議もっと充実したものになるんじゃないかなといつも思ってますんで今日はあえてそれをお話しさせて頂きました。それから今日は国それから県の方いらっしゃいます、どうか私達の着地点を設定して頂いて、こういった議論をできるようにご配慮頂ければと思っております。あと私も双葉の人間でありますので先程 B 班でも出ました妄想とか空想といった世界になると思うんですが、いずれは双葉町が再建できるように私ども D 班でもあげましたけれどあくまでも理想ですがこういった双葉町になる為にはこういった会議はこれからも末長く続けていって頂ければいいのかなと思っています。以上です。

【谷　充　委員】

前回の時はお休みしました。私の方の会議もございましてお休みして頂きました。今日出てきたんですけれども前回の事がちょっとわからないので今日のぞいたらこういう事やるんだなと聞いて参加したんですけれど、確かに B、C と D もほとんど似たような事が書かれているようで私からは何がこうだって事も無いんですけれど、ただ一つはやっぱりこのここにある真ん中にある中間貯蔵施設、これが一番ネックだと思うんですよ。これが境に考えるとなかなかこの文句が出てこない。でこればかり考えたんではこの場で発表する場面無くなっちゃうんで、じゃあどうしようかと、じゃあこれはこれとしてじゃあこういう風にやりましょうという事で先程菅本さんから説明あったこの近隣とのきずなと、それからきずな、それからあくまでも理想とか、他にもこの再建だとかこういうような構想の中でお話しをして頂きました。現実にいくとこの辺がいけばいいなあという風にこう思うんですけれど今の段階ではなかなかここがあるのと、それから 10 年、20 年、30 年どうしようかとこの図見るとこの辺も怪しくなるしこの辺の怪しくなるんじゃないかという風に思いながらもこういう風に書きました。ちょっとお喋りが下手でまとまりのつかないですけども以上で終わりたいと思います。ありがとうございました。

【小畑　明美　委員】

小畑です。今日の会議はですね特にすごく深刻っていうか、凄く私的には重い会議だなとつくづく凄く思いました。というのは田中さんも言った通りに将来像っていう議題なんですけれど、なかなかちょっと現在と将来、先程言ったようにその中間貯蔵っていう問題がネックの為に県国町もちろんどのように進むか我々素人が全然わからない中でその双葉町の将来像をどうしたらいいかという事が凄く自分の中では難しく凄くとらえてしまった自分がいたんです。なんですけども改めて少しずつなんですけども本当に理想、妄想、現実っていう感じだと思うんですけども、私が意見を述べさせて頂いたのがちょっともう身近なちょっと将来の方が頭に思い浮かばないのでどうしても、もう直近の今できる事はなにかなっていう事をちょっと一番先にちょっと考えさせて頂きました。それで今日の会議を通じて強く思った事が将来に向けて再生するのがその 10 年後なのか、20 年後なのか、30 年後なのかもうわからない状態の中でいるのでこの会議を通じて将来 30 年間もしかかったとしてもこの会議はもう 1 ヶ月 1 ヶ月本当に

大事な会議になっていってなおかつこの絆の継承の通り会議はずうっと今の子供達が大人になるまで、それで双葉町が再生するまで続けていかかくてはならない会議だなって凄く強く痛感しました。どうもありがとうございました。

【ファシリテーター　林　聖子　氏】

D チームのみなさんどうもありがとうございました。グループの皆さんの発表を終えて今 3 チームのまとめを金子先生の方から発表して頂いてその後意見交換の場面からはまた委員長に進行の方をバトンタッチして進めていきたいと思います。じゃあ金子さんお願いします。

【ファシリテーター　金子　和夫　氏】

今日の議論は大変難しかったかと思います。拝見していても時間の中で 3/5 位まではどっから入ったらいいのかなとか非常に難しいねという議論がずっと続いてたと思います。その時にまさに名言ですけれど妄想、空想かなあと言いながら話していて最後の 1/5 位の時間で少しこのカードを整理しながら具体的には何ができるのかなというところにちょっとこう流れがかわったかなとそんな風に拝見しておりました。僕も拝見していてまとめるのが難しかったんですけどもまずこんな風に思いました。

今日の議論でも帰還の条件が曖昧な中であえて将来像を考えてくださいといった訳ですけども、まさに今帰還の条件が不明な中で将来を考えるというのは妄想、空想だというのが皆さんの率直な気持ちだったというとこですね。さりとて話している中でやはり具体的に言葉が出てきたんですが、そのじゃあその妄想、空想で一応あげたものと現在がはたしてどういう風に繋がるのかなという所を私も聞いておりました。

将来像、理念として印象に残ったのがやはり子供と未来という事だと思うんですよね。今自分達の世代でどうも帰還する事は難しいんじゃないかとお考えですけど、子供に伝えていきたいという事と、子供が将来双葉町で暮らす事を選択するか、ここが今非常に心が揺れ動いているという感じを受けました。

それからもう一つはその故郷双葉という事です。これも皆の声が決して大きいとは思わなかったんですがやっぱりあのシンボルであるとか、皆と交流したいという事で故郷っていうのは風景とか空間という事ともう一つはお友達とかコミュニティとかいうソフトと両面あるんだろうなと。その今の段階ではその両方とのごちゃ混ぜになって双葉に対する思いになってるのかなあと思いました。だからあえてやっぱり故郷双葉っていう思いがこの再生にあるのかなあと思いました。

将来像で出てくるのが、まず一番鍵になっているのが町の核という事でリトル双葉は二つ皆さんの意見があったんですね。将来帰れるかわからないので双葉町の中にリトル双葉をつくるという話しと、将来戻れるかわからないので町外にリトル双葉をつくっていってそこで全国に繋がっていくんだよと両面があったと思います。こういうリトル双葉と言うのが町内にしろ、町外にしろこの心のきずなというか皆さんを繋いでいくものなんだなと思いました。そこの役割としては文化の継承とか双葉の復興のシンボルとか昔の双葉のシンボル、先程あの駅の時計がカラクリ時計が皆のシンボルだったという様な話しを聞きました。まあそういう様な物とか交流といった事があったと思います。

それからもう一つ将来に向けて人が住んで、若い人が働くという点では大学とか研究機関とか廃炉の研究とかそれにからむ企業誘致、エネルギー関連と、これらは多く出てきてる。大きく言うと将来像はこういった物が出てきていると思いました。

あと将来双葉を復興していく過程での、途中の取り組みについて意見がありました。今多くの方の気持ちは、当分戻らないだろう再建ですよね。現在考えている個人個人は戻らない再建、多分自分は戻らないだろうと。ここに赤線引いてあるんですけれど戻るっていう再建を考える前段階ですね。それは、帰還の条件が曖昧で、今戻る事を考えるのは妄想に近いと、そんなお気持ちじゃないかと思うんですよね。でもこの距離というのは、この委員会で話し合いを続けていく事が大事だと仰ってました。話し合いを続けていく中で帰還の条件も変化してくるだろうし、色んな条件も変化してくるだろうし、皆さんの気持ちも変化してくると思うので、この

戻らない再建から戻る再建というのも出てくるんじゃないかと思いました。その早い段階で一つはリトル双葉というものを町外につくる、もしくはひょっとしたら今の時点で帰還のシンボルを町の中に再興してもいいのかもしれない、それから子供達の為の記録づくりと文化の伝承、教育というところから始めるっていうのはこれは比較的早いのかなあと思いました。子供達、そして将来を担う人材育成、そしてやがてそうするといずれ復興関連の機関が立地するようになっていく中で、若者が働く人の雇用機会が生まれてくる、ないしは関連サービスの人がその働くようになってくる形で進んでいくのかなあと思いました。次の段階で町の核となる拠点的な物がつくられていくという事でないかと思いました。

それともう一つ皆さんの発言で気になったのが、双葉町をどうしても残したいですかという事に対して、例えば町単体でなかなか成立するものではなく、双葉郡全体で 7 万人という人口であると、そう考えると近隣自治体と連携するとか、広域合併という事もあり得るという意見もございました。ですからこういた周囲の仕組みも変わってくるんだろうなというかたちでございました。このようなかたちにまとめさせて頂きました。

【ファシリテーター　林　聖子　氏】

金子先生どうもありがとうございました。ではこれよりは間野委員長の方に進行をバトンタッチしていきたいと思います。

【間野　博　委員長】

皆さん御苦労様でした。ここからは全体討議という事でそれぞれの発表をお聞きになって他の班の発表をお聞きになってどういう風に思われたかみたいな事をお互いに意見交換をしたらいいんですが、その前に実を言うと今日御欠席の岩元善一さんの方からご意見が寄せられております。ちょっと紹介する時間が取れないんですが一応今日の会議に向けてご意見が出ておりましたので皆さんにお知らせするべくお配りをしております。それでは全体討論に入りますが、学識経験者の委員の方の中で芥川先生が来られております。まず芥川先生に今日の発表を聞いての印象あるいはご意見等をお伺いしたいと思います。宜しくお願いします。

【芥川　一則　委員】

芥川でございます。今日は参加させて頂きましてありがとうございました。発表を聞いた意見ていうか感想からまず述べさせて頂きたいと思います。3 つのチームから聞いた中で一番感じたのは皆さん自身が双葉町とは何かというのをもう一回考え直されているんだなというのを感じました。それでその次に感じたのは何かっていうと双葉町をどうやって存在させていこうって事を皆さん考えているんだなあと思いました。その中の一つの案として合併という事の他、継承という様な、あるいはその原爆ドームの様なその資料館をつくっていくっていう様な事がその一つの表れかなあという風に私は感じました。ちょっと気になった事があったんですね。将来像を皆さん描いている時に誰がっていう事は凄く他人的に感じたんですね。その中で一つ進歩がみられていったのは B のところで介護をやってらっしゃる方が「私たちの住民がやらなくちゃいけないんです」っていうような説明をして頂いたんですね。次に C グループ山本さんには感激したんですけど「息子さんと一緒にやりたい」と、つまり若者の意見をここで取り入れていこうという方がいらっしゃるというのは凄く大きい事だなという風に思いました。D チームの事で感じた事なんですけどどうしても皆さん中間貯蔵施設っていうのは大きな存在かと思うんですけど、できればそれはマイナスではなくプラスの方向で考える様な心の持ち方、発想を持って頂ければなと思いました。その中で C チームの方に苦言を呈したいなと思ったのが具体策ってもうちょっと入れてほしかったなとあったんですけど、国営っていうのはやめた方がいいです。復興庁の方いらっしゃいますけど国は頼りにならないです。皆さんが復興をしていくという意識を持って頂きたいというのが最後の私の意見です。以上です。

【間野　博　委員長】

ありがとうございました。それでは今から皆さんの間で、他のチームの発表を聞いて思った事とかあるいは質問とかその辺りの事を少し出して、それから意見といったところを出して頂ければと思うんですがいかがでしょうか、どんな事でもよろしいんですが。

【山本　眞理子　委員】

小畑さんにお聞きしたいのですが、この状況の中でお母さんの意見を聞くことは、とても大切なことだと思っています。現在小学校に通われてる息子さんとどのような事をお話しされているのかお聞きかせください。。

【間野　博　委員長】

小畑さん、宜しくお願いします。

【小畑　明美　委員】

その話しはよく私達周り子育て世代がちょっと多いもんで常々そういう話しになるんですけれど、凄く今まで常にあの双葉町は、うちの息子は小学校 4 年生になった。その当時、震災当時保育園の年長さんだったんですね。小学校に入学するっていう時期だったんですけども、でずっと経て今おかげ様で 4 年生になりました。その中で日々我々大人が私もこういう復興会議を通じて子供に継承っていうか、双葉町、故郷を忘れないでほしいっていう強い気持ちで日々おくってます。話しの家族の中でも先程ちょっとうちらの会議でも出たんですけれども、たまに双葉町のホームページなんですけどグーグルでこう双葉町の地図がこう見れるんですよね。それをあの当時ちょっと被災当時は保育園だったので、保育園から自宅までどういう道のりでどういうところを通って帰ったかって子供と一緒に地図を追って、ここの建物道覚えてるとか、ここの道覚えてるっていう様な記憶の本当に薄れない様に変な話しなんですけどちょっとしつこい程双葉町あそこにこういう事あったんだよっていう感じで日々そういう意識的に子供には双葉町の風景だとか、息子には双葉町が故郷なのよっていう様な気持を大切に持っていってほしいっていう思いで日々私は子供と接しています。で、将来的にも先程うちらの会議の中で凄く通じて感じたんですけれども、確かに本当に今現在私が会議に出させて討論させて話しをさせてもらってる、この今現状のものを将来 20 年、30 年後もすっと息子に受け継いでいきたいというか、この問題を永遠に息子も語っていってほしいなっていう思いで日々生活しております。

【間野　博　委員長】

ありがとうございました。他如何でしょうか。

【高田　秀文　委員】

D 班の方でちょっと名前忘れたんですけども戻らないっていう方いましたよね。この計画を、復興計画を考えてほしいって言ったかと思うんですけど、私も戻らないって決めてる一人なんです。そういった戻らないって言う住民、町民の方々の復興ってこれはあくまでも双葉町の復興なんでちょっと話がずれてしまうんではないかと思うんですけど、戻らないって決めた方々のその復興っていうのは町としてどんな風に考えてるものなんで、ちょっと思ったんですけどお答え頂けますか。

【間野　博　委員長】

発表時点から町の職員の方も県の方も復興庁の方もいらっしゃいますので、そういう質問もあっていいと思っております。如何でしょうか。

【事務局　駒田　義誌】

まさに今高田さんの仰った事は、今日ご説明をさせて頂いた資料の中でも町の復興は双葉町の復興は 2 本柱で当然考えておりまして、人の復興と町の復興という事で、今日はどちらかというと町の復興をご議論頂くという事でご議論頂きましたけれど、これまでの前提として人の復興として町民一人一人が生活再建を果たすと、これは一つの復興の大きな柱だと考えてます。町としても賠償の問題、復興公営住宅問題、あと予てから委員会で頂いている町民が集い集まれる場の設置といったこういった避難先で生活の安定が図られるような取り組みといった事はこれはしっかりやっていこうという事が前提だと思っております。そのうえで長期的な課題として本日町の復興についてご議論お願いしたという事です。

【間野　博　委員長】

はい、田中さん、関連質問ですね。

【田中　勝弘　委員】

先程 D 班で私が他の地域で避難先での再建という事を考えてはいいんじゃないかという様な提案をしたんですが、今日思いきって色んな事をお話ししたいと思うんです。まず長期的なビジョンの目標をこういった委員会で議論をする前にもっとこう細かく短期的、中期的な時期を捕えたそういった内容の議論も多くした方がいいんじゃないかと私は思っています。先程うちの D 班からも今回議論した内容のものが絵に描いた餅になってしまうというような話しがありましたが、本当にそうなってほしくないと思っております。その辺の所現実をよく見据えて、現状を受け入れて、私たちの運命を受け入れて、そして新しい双葉町の再建に向けて議論を進めた方がいいのではないかという意味で、戻る事を前提ではなくて戻らない事を前提にした議論も一つ必要ではないかという事でこの委員会の事務局に提言したいと思います。以上です。

【間野　博　委員長】

はい、ありがとうございました。だから追加質問というよりは趣旨をもう一回確認したという事でよろしいでしょうかね。他如何でしょうか。はい、岩本さん。

【岩本　千夏　委員】

その長期ビジョンの目標って事で要は避難解除後ですよね。これってもう一回こういう風なワークショップ設けましたけど今後の町としての出たものをどうしようとしているのか一つ聞きたいところなんですけど。

【間野　博　委員長】

長期ビジョンを今度どういう風にしたいかって事ですね。お願いします。

【事務局　駒田　義誌】

今こういうワークショップ形式で皆さん一人一人のアイデアをグループごとに整理して発表して頂いております。で今回 2 回目ですけれど、あと継続したうえで最後まあ個別個別で頂いているアイデアを一回事務局の方でしっかりとまた整理をさせて頂いて、それをまた委員会でご提示をさせて頂いて、特に今回頂いている意見ていうのはビジョンで定めるものと書いてある中の双葉町の復興の理念であるとかそういったところに入れていくべきものだと思っておりますので頂いたアイデアを系統立てて、整理をしてもう一度委員会にお諮りをして、そこからビジョンをつくっていきたいなという風に思って

【岩本　千夏　委員】

つくったビジョンを今後どうするのかって、2 年後、3 年後、5 年後、10 年後と。

【事務局　駒田　義誌】

まず長期ビジョンという事で大きな方向性について、まあこれもビジョン年々年々変わって、状況の変化で変わっていくものだと思いますけど、一回今現時点で考えられる長期ビジョンというものをつくったうえでこれを国、県にぶつけて、その実現に向けた色々な制度であるとか予算であるとか、そういったものを近づけていきながらあと状況の変化に応じてまた町民の皆さんの意見を聞きながら軌道修正しながら取り組んでいくと、そのまず大前提となるものだという風にご理解を頂ければと思います。

【間野　博　委員長】

他いかがでしょうか。B、C、D それぞれ聞こえてくる言葉をずっとあれすると、それぞれ大分違う方向で始まった、話が始まったなと思ったんですけど、まとまってみると何か割と共通点がありますね。そういう意味では皆さんの思っていることっていうのはかなり共通の思いがあるんだなというのはあったような気がするんですが。

これを町の方からありましたように整理をして、それを取り込んだ形でまた委員会に提示をしてご議論いただくということになるわけですけれども、そういうようなことでも今日のところはよろしいですかね。

【菅本　洋　委員】

前回だか前々回だかちょっと私も忘れたんですが、双葉町全体のことなので、結局各自治会

の会長とか、色々な関係の方が、代表がいてるんですが、その中で是非とも区長会の会長を入れてほしいということで前回だか前々回だか私提案したんですが、その答えがまだ返ってこないんですよ。それをどんなふうに考えているか。ひとまず当局にお伺いしたい。

【間野　博　委員長】

いかがでしょうか。

【事務局　駒田　義誌】

その意味では今回、委員の皆様については所属の長ということではなくて各分野でご活躍されている方ということでお願いをさせていただいています。それぞれ組織組織のご意見というのはまた１つ大事な点だと思いますので、行政区は行政区長会も定期的にやっておりますのでそういった形でどのタイミングでご意見をお聞きするのかというのはまたちょっと検討したいと思いますが、何らかの形で意見をお聞きするという形で進めていくべきかなと思っておりますので、委員はこれで、今回これでスタートしておりますので当面はちょっと現状のままとさせていただいた上で、別途そういう区長会とか、そういう場でご意見をお聞きするとかそういう形を考えていきたいと思います。

【菅本　洋　委員】

分かりました。

【間野　博　委員長】

はい、他いかがですか。この際、町にちょっと聞きたいとかいう話があれば。よろしいでしょうか。

【伊藤　哲雄　副委員長】

先程、国営というのをちょっと訂正させていただきますが、間違っていました。これ国営じゃなくて国策です。国策で企業を優先してもらいたいなという意味で言ったつもりだったんですけれども、すいません。

【間野　博　委員長】

国策として双葉に産業を持ってこいということですね。訂正とかってのも含めて他ありませんか。いいですかね。

それでは、この辺で全体討論ということは終わりまして、私から少し感想というか述べたいと思います。

今日の話はやっぱり難しかったですね、本当に。非常に難しいテーマを議論していただくことになりまして申し訳なかったです。ただ僕は、これはいい言葉だなと思ったのは、「妄想、空想、現実」。現状を考えると、もうこういう未来の話と言うのは妄想からしか出発出来ない。だからそういう意味では議論をするきっかけとして「もう妄想でいいから、ともかく思っていることを出そうよ」というところから始まるのが非常にいい方法だと思います。

ただ、実際に出てきた中身を見ると、僕自身から言うとそんな妄想でもなくて、確かに今当分の間はともかく戻れない、使えないという場所、双葉町というのはそういう場所なんです。しかし、これがずっと未来永劫続くわけではないわけで、それこそ先程から何人かの方がおっしゃったように、子供の時代、或いは子供の子供の時代ぐらいには何かやっぱりここは何ていうか元に戻せるような状態っていうのがあるわけですから、その時にどういう町であってほしいのかという、そういう希望も含めた町の姿というものに対して、やっぱり町民の意見として、町民の希望としてちゃんと出しておくといったことは、やはり国とか県、或いは町そのものに対しても非常に重要なことだと思います。

そういう意味で１つ１つの提案を見ていきますと、決して妄想ではなくて、そういう状況が出来た暁には十分に可能性があるものだと思います。

それから今日の話の中で、例えば残すものでもカラクリ時計は出てきたけど、カラクリ時計以外にも何か残すものはないの、みたいなことを多分それはそれでテーマとして議論をすると「他にもこういうものもそういえばあったよね」とかいうのが出てくるんじゃないかなという気がするので、その辺をもう少し妄想の中でもう少しつっこんでみたらどうかなというような

ことをちょっと思いました。そんなところです。

従いまして、是非、次回も、少し難しい議論ではあるのは分かっているんですが、この長期ビジョンの話を続けさせてもらいたいなと思っております。

ただ、難しいということを背景にしての話なんですが、次回は、この例えばグループだとか或いはテーマの設定の仕方とかっていうのをどういうふうにするのが、この会議を先に進めるのに相応しいかということに関しては副会長とも相談をしてグループ編成、テーマ設定、相談した上で皆さんにお知らせしたいというふうに思っておりますが、そういう形とらせていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それではそういうことでまたグループも変わるかもしれません。テーマも少し変えることになるかもしれませんが、またお知らせをしたいと思います。

最後に副町長、今日は町長が公務の為出られないということで副町長に来ていただいておりますので、副町長からご挨拶いただきたいと思います。半澤副町長お願いします。

【半澤　浩司　副町長】

皆様、本日は大変活発なご議論ありがとうございました。本日町長が双葉郡町村会、議長会の合同要望が出ておりますので、本日欠席しておることをまずもってお詫び申し上げます。

B チーム、C チーム、D チームの発言、非常に参考になることが多く、特にまず B チームさんで思ったのは子供達の意見ということで、そういった部分が大事だということは実は去る 6 月 4 日、小泉進次郎政務官が双葉の町立学校を訪問いただきまして、その際に児童との意見交換会の中で「将来何になりたいか」ということを進次郎さんが男子児童に言ったところ、町立学校に通っている男子児童が「双葉町の復興の為に役立つ人間になりたい」ということを言ってくれたんです。ちょっとそれを聞いた帰りの車中で町長が、非常に感動したということで、そういう子供達の思いに応えるような取り組みを我々もやんなきゃなということを言ったのをこの話を聞いて私も改めて思ったところでございます。

山本さんからの意見の中にも正に子供に、息子に夢を託して一緒に話し合っていきたいということもありましたので、そういった心を我々も持ちながら復興に向けて取り組む必要があるなということを非常に感じました。

今回のキーワードの中でよく出てきたのが、妄想、空想、現実という正におっしゃる通りでありまして、今回ネックになっている議論という中間貯蔵施設、廃炉の問題と出てきておりまして、15 日で終了した住民説明会の説明が不十分で、全然納得されてないというお声も当然我々もオブザーバーとして参加しているので肌身をもって感じております。そういった部分に関しては国から改めての具体的な回答という形にはなってくるだろうと、先日の石原大臣の謝罪の際にもそういう方向になるのかなと思っておりますが、そういった中で今回の議論をしていただいたということは非常に苦しい中で皆さん色々お考えていただいたのかなというふうには思っております。

こちらさはさりながらというか、妄想、空想、そういった中で川原さんがおっしゃっていた「そういった中でも 1 つでも 2 つでも実現可能になることを願って」ということが正に今回、町民代表でいただいた皆様のアイデアを実現する為に我々も考え、国や県にもそういったものの実現に向けて努力を一緒になって求めていくということも必要なんだなということも感じたところです。

後、更に 3 グループさんから共通の話題として、帰れることの今回のテーマした議論でありながら、現在の生活再建であったり、双葉に帰れるまでの町外拠点の在り方であったり、いわき以外にもというご意見等もございましたが、そういった中で例えばそのハードの部分とソフトの部分っていうところ、特に文化の継承とかは今いらっしゃる現役世代の方々が継承のスタートを切らないと、将来の帰還に向けてそれが繋がっていかないだろうというところの危機感は持っております。そうした文化の継承等のソフトの部分をある程度歎賞つけるという必要もあるでしょうし、それを将来帰還の際に町の中のモニュメントであったり、そういった部分のセットで町として語り継ぐというか、残していくというようなアイデアも今回非常に示唆をい

ただいたと思っておりますので、そういった部分で本日の意見を再度、事務局としても整理させていただきまして、次回以降の議論に反映させていただきたいと思っています。本日は貴重な意見、本当にありがとうございました。

【間野　博　委員長】

それでは事務局の方から連絡事項をお願いいたします。

【事務局　細澤　界】

お疲れ様です。事務局からご連絡です。次回の委員会の日程についてお知らせしていきたいと思います。今のところ予定といたしまして、7 月 23 日に次回の委員会の方を開いていきたいと思います。委員長からもお話があった通り今回の議論を踏まえて中身を整理した上で再度、また皆さんに通知の方差し上げていきたいと思いますので、出来るだけ日程調整の方をお願いできればと思います。以上でございます。

【間野　博　委員長】

はい、ありがとうございました。本日予定しておりました議題については以上ですが、これで終了したいと思います。何か皆さんの方からありますでしょうか。よろしいでしょうか。いいですか。

はい、それでは本日の委員会はこれで終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。

以上

第8回双葉町復興推進委員会座席表（グループ発表・全体討論）

（敬称略）

1　日時　平成26年6月26日（木）
　　13：00～16：30
2　場所　双葉町いわき事務所　2階大会議室

C

齊藤　六郎
山本　眞理子
川原　光義
木藤　喜幸
岡村　隆夫
伊藤　哲雄

D

小畑　明美
岡田　常雄
菅本　洋
谷　充
田中　勝弘

B

横山　敦子
松本　浩一
高田　秀文
岩本　千夏
石田　恵美
大橋　正子

復興庁
石川　悟
参事官補佐

復興庁
福島復興局
米山 冶介
参事官

復興庁
福島復興局
須田　亨
参事官補佐

福島復興局
いわき支所
林　文之
次長

福島復興局
いわき支所
横山　大輔
参事官補佐

福島県
避難地域復興課
根本　朝彦
主査

猪狩浩	産業建設課長	山本一弥	税務課長	平岩弘	秘書広報課長	舶来丈夫	総務課長	武内裕美	総括参事	半澤浩司	副町長
間野博	委員長	芥川一則		半谷淳	教育長	松本英	住民生活課長	志賀睦	生活支援課長	大住宗重	健康福祉課長

事務局(復興推進課)				事務局(復興推進課)						事務局(復興推進課)	
小山勲	支援員	西牧孝幸	主事	山下明弘	副主査	橋本靖治	主査	細澤界	課長補佐	駒田義誌	課長
今泉祐一	教育総務課長	山下正夫	議会事務局長	半谷安子	会計管理者	由波大樹	支援員	伊藤壽紹	支援員	山中啓稔	支援員